

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:75.

ICU退室後訪問からみえてくる集中治療後症候群に対するケアの必要性

酒井 周平

ICU退室後訪問からみえてくる集中治療後症候群に対するケアの必要性

旭川医科大学病院 ICUナースステーション 酒井周平

【はじめに】

集中治療後症候群Post Intensive Care Syndrome(以下、PICS)とは、ICU入院中あるいはICU退室後に生じる運動機能、認知機能、精神の障害であり、重症疾患から回復した患者家族への生活に大きな影響を及ぼしているといわれている。ICU退室後患者のPICS傾向の現状から、A病院ICUにおけるPICSケア導入の必要性を明らかにし、診療体制や組織背景に合わせたケアシステムの構築を検討していく必要がある。

【方法】

ICU退室後訪問をした患者のPICS傾向について評価し、A病院ICUにおいてPICSケア導入の必要性について検討する

【結果】

2018年2月から同年5月までにICU退室後訪問をした患者60名を対象とした。性別は男性67%、女性33%。平均年齢67.7歳。ICU平均入室日数10.2日。対象患者のうちPICS傾向を64.8%に認め、その内訳は運動機能障害53.7%、認知機能障害33.3%、精神の障害14.8%であった。訪問時にICU入院中の記憶について問うと、「しっかり覚えていますよ。いまでもICUのことを思い出して、夜中に目が覚めることがあります」などの語りが得られた。

【考察】

先行研究において、集中治療を受ける患者のうち50～70%がPICSを発症することが明らかにされている。このうちICU-acquired weakness(AW)は人工呼吸患者の33%、敗血症患者の50%、認知機能障害は30～80%に発症する。また、精神の障害は30%が抑うつ状態、70%が不安、10～50%が心的外傷後ストレス(PTSD)の症状を示すとされる。A病院ICUで治療を受けた重症患者のPICS傾向は、これらの結果に類似していることからPICS予防のケア体制を構築する必要があるといえる。現在は、今年度より多職種で作成した早期離床・リハビリテーションプロトコルの導入やICU専従理学療法士の配置などが開始され、早期離床に重点的に取り組んでいく段階にある。今後は、Semi-Open ICUという診療体制や看護師の病棟異動が頻繁なA病院において、いかにABCDEFバンドルの導入や定着を図るかが課題である。

【結語】

A病院ICUにおいてPICSケアの導入が必要であることが示された。今後は、早期離床の成果を積み重ね、組織文化に合わせながらABCDEFバンドルの導入を見据えていく必要がある。